

様 式

# 自己点検・自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.3.0 準拠版)

2020年2月1日現在

東京アニメ・声優&スポーツ専門学校

# 目 次

<b>基準 1 教育理念・目的・育成人材像等</b> .....	1	<b>基準 4 教育成果</b> .....	25
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか.....	2	4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか.....	26
1-2 学校の特色は何か.....	3	4-20 資格取得率の向上が図られているか.....	27
1-3 学校の将来構想を抱いているか.....	4	4-21 退学率の低減が図られているか.....	28
<b>基準 2 学校運営</b> .....	5	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか.....	29
2-4 運営方針は定められているか.....	6	<b>基準 5 学生支援</b> .....	30
2-5 事業計画は定められているか.....	7	5-23 就職に関する体制は整備されているか.....	31
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか.....	8	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか.....	32
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか.....	9	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか.....	33
2-8 意思決定システムは確立されているか.....	11	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか.....	34
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか.....	12	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか.....	35
<b>基準 3 教育活動</b> .....	13	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	36
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか.....	14	5-29 保護者と適切に連携しているか.....	37
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか.....	15	5-30 卒業生への支援体制はあるか.....	38
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか.....	16	<b>基準 6 教育環境</b> .....	39
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか.....	17	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	40
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか.....	18	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	41
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか.....	19	6-33 防災に対する体制は整備されているか.....	42
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか.....	20	<b>基準 7 学生の募集と受け入れ</b> .....	44
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか.....	23	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか.....	45
3-18 資格取得の指導体制はあるか.....	24	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	46

7-36	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか.....	47	9-42	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか.....	55
7-37	学納金は妥当なものとなっているか.....	48	9-43	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか.....	56
<b>基準 8</b>	<b>財務</b> .....	<b>49</b>	9-44	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか.....	57
8-38	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか.....	50	9-45	自己点検・自己評価結果を公開しているか.....	58
8-39	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか.....	51	<b>基準 10</b>	<b>社会貢献</b> .....	<b>59</b>
8-40	財務について会計監査が適正に行われているか.....	52	10-46	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか.....	60
8-41	財務情報公開の体制整備はできているか.....	53	10-47	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか.....	62
<b>基準 9</b>	<b>法令等の遵守</b> .....	<b>54</b>			

# 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人滋慶学園 東京アニメ・声優&amp;スポーツ専門学校は、学校法人滋慶学園グループ（※1）に属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッション（使命）としている。</p> <p>「建学の理念」（「実学教育」（※2）「人間教育」（※3）「国際教育」（※4））を实践し、「4つの信頼」（①学生・保護者からの信頼 ②高校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼）を得られるように学校運営をしている。</p> <p>建学の理念に基づき、東京アニメ・声優&amp;スポーツ専門学校は、『アニメを通して、人に喜びや感動を与えられる「即戦力」』となるエンターテインメント業界の人材育成を目的として学校運営をしている。</p> <p>現在、エンターテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を目指す。</p>	<p>（※1）「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「建学の理念」（実学教育、人間教育、国際教育）と「4つの信頼」（学生・保護者からの信頼、高校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼）を实践することで、理想の教育実現を目指す。</p> <p>医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス・映画・アニメ等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで78校を有する。</p> <p>（※2）「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。</p> <p>（※3）「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。</p> <p>（※4）「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションとし、それを遂行するための「建学の理念」と「4つの信頼」がある。	「建学の理念」を教育システムに落とし込み、「産学連携教育」「挨拶運動」「海外実学研修」等により実践している。	理念は変わらないが、目的や育成人材像は業界から遊離したものであってはならない。常に業界と共にあるという姿勢を怠らないことである。	滋慶語録
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	理念・目的・育成人材像を実現するための教育システムを構築し、取り組んでいる。	「建学の理念」を教育システムに落とし込み、「産学連携教育」「挨拶運動」「海外実学研修」等により実践している。	「産学連携教育」の更なる取り組みを目指し、より深く、より強く、業界との繋がりを持つことが必要である。	
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	理念が変わることはないが、目的の変化に即して対応するため、カリキュラムや目標達成のための方法や過程の見直しをしている。	教育部会を設置し、姉妹校とも情報共有し、時代の変化に対応すべく、教育システム、カリキュラム等々を見直している	時代の変化に即した学科や専攻を開設した場合、現行の学則の教科課程では対応できない可能性も出てくるので、学則変更も必要。	
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	理念・目的・育成人材像は明文化・文章化されており、学校に関わるすべての人に周知してもらっている。	滋慶語録・事業計画・学生便覧・教育指導要領・パンフレット・HP等々で、打ち出しをしている。	業界のニーズを講師や業界からリサーチし、よりこれからの時代に合った人材育成を目指していく。	滋慶学園グループパンフレット

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校と本校の属する学校法人は、学校運営にあたり、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとし、それを遂行するために、「建学の理念」と「4つの信頼」を基に、事業計画を作成しているからこそ、健全なものとなっている。また、理念・経営者の言葉等々を文書化し、組織内への浸透、新入職者へのわかり易い提示により、活性化に繋がっている。	学校長・教育顧問・教務部から構成される教育部会を設置し、育成人材像から教育システム・内容（カリキュラム）等々の見直し、開発など、スケールメリットを活かして行い、共通化を図っている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

1-2 学校の特色は何か

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	「実学教育」と「人間教育」を達成するための「産学連携教育システム」、「学生一人ひとりを大切に」こそ、本校最大の特色である。	「産学連携教育システム」では、企業プロジェクト、企業課題、企業イベントが、「学生一人ひとりを大切に」では教職員一丸となつての学生サポート。	企業プロジェクトの数が学科によってばらつきがあり、より多くの企業との連携が必要。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は専攻に対する業界への就職率として、「専門就職率」を重視しているが、これを高めるための教育システムと学生支援が最大の強みであり、特色である。本校は、入学前から卒業後まで一貫した教育システムを構築しており、それが学生の最終目標である「専門業界への就職」を可能としている。	本校には特色である2つの大きな教育システムがある。1つは自己3段階教育（自己発見→自己変革→自己確立）、もう1つは、産学連携教育システム（企業プロジェクト、Wメジャーカリキュラム、インターンシップ、海外実学研修、キャリアセンター）であるが、これらを実践することで、高い専門就職率を実現している。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	滋慶学園グループが計画する5ヶ年計画をうけ、各校は具体的に各年度事業計画書を作成し、その中で5年後の将来像等構想を描いている。	業界の大きな変革期にあたり、3・4年制学科の新設を行う。2年間では学べない「質」の高い人材育成を目指す。	3・4年制のカリキュラムを業界と連携して組み、2年間では学びきれなかった、マネジメントや語学などの学びも取り入れる。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では、将来を見据えた学科・専攻構成の見直しを毎年行い、その結果、その多様性は本校の独自性を示している。今後は、テクノロジーを新たに取り入れて、これから業界で必要となる、専門分野以外の知識や技術、マネジメント能力、コミュニケーション能力、語学力を備えた人材の育成。	業界はアナログからデジタルに急速に変化しており、アニメ・声優分野もこの波は入ってきている。 今までと同じ学びではなく、幅広い職種に就くために必要なカリキュラムが必要になってくる。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 基準 2 学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。</p> <p>それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。</p> <p>事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p>

最終更新日付

2020年2月1日

記載責任者

上田 卓弥



## 2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	事業計画の一環として運営方針を位置づけている。チームで運営方針を検証し、徹底させている。その上で、目標が決まり、実行計画が練られる。	運営方針の実現のため、運営会議、学校全体会議、教務会議などを通じ、問題点や課題を明らかにし速やかに解決策を出し、実行する。	運営方針が全教職員に周知徹底出来ているかどうかを重要課題と考えており、常に教職員へ伝えることを意識しておく必要がある。	2020年度事業計画書
2-4-2 学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	滋慶学園グループCOMグループの運営方針を基に学校運営方針が決定し全体会議等々で全教職員に周知徹底されている。	学校の方向性/方針/新体制を周知した上で、各教職員の役割確認、個人目標設定をし研修等々でさらに個人業務へ落とし込むシステムがある。	各部署で、個人目標の設定、個人業務等に運営方針を踏まえて落とし込まれているかを確認することが必要である。	2020年度事業計画書
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	学校としての基本的な考えを基に、各種の規定が整備されている。	個人情報保護規程、広告倫理規程、就業規定等々、各種規程が整備されている。	各種規定を全教職員に周知することが課題であり、会議等で繰り返し、徹底させる必要がある。	個人情報保護規程、広告倫理規程、就業規定 他

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>滋慶学園グループ、COMグループの運営方針を基に、各学校の運営方針が決定される。この運営方針が全教職員に周知徹底されることが重要であり、そのための研修、会議を実施のうえ、個人個人の目標や業務に落とし込み、全体として学校の運営方針が実現されるようにする。</p> <p>また、運営方針に基づき、各種規定が作成され、実行される。</p>	<p>運営方針を全教職員に周知徹底させるための研修、会議等が充実しており、またこの研修、会議で個人個人のレベルへ落とし込み、全体として運営方針が実現されるシステムを構築している。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	滋慶学園グループの5ヶ年計画を受け、COMグループ及び各学校の事業計画を定めている。	事業計画の中では、広報、教務、就職がそれぞれ具体的な目標を設定し、それを達成するための戦略・戦術により遂行される。	職場運営や職場での人材育成がしっかり成されることで、リーダー、マネージャーの育成、成長が常に重要な課題となる。	2020年度事業計画書
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	事業計画は全教職員に周知徹底され、学校運営はこの事業計画に沿って行われる。	事業計画を受けて、個人個人の目標設定、業務を遂行するため、学校は事業計画に沿って運営されている。	全教職員への周知徹底が最も重要な課題であり、またその徹底度合、進捗度合の検証が必要である。	2020年度事業計画書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>環境の変化を前提に、毎年経営状態を考察し、前年度事業計画を検証し、次年度事業計画を定めていくことは非常に重要である。</p> <p>事業計画は、組織の長期・中期・短期の定性目標、定量目標を達成するための目的意識を共有すべく、全教職員に周知徹底し、個人個人が目標・業務に落とし込み、遂行することが必要であるが、そのシステムを確立している。</p>	<p>事業計画を全教職員に周知徹底させ、また個人個人がそれを受けて目標設定を行い、業務へ落とし込み、遂行することで、組織目標が達成されるが、そのシステムを確立している。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-6 運営組織図はあるか	事業計画の中で、組織図を定め、作成しており、その組織図に基づき、学校運営が行われている。	学校運営するための組織は充分機能的であり、また意思決定システムも明確になっている。	学生数と人員の配置が適正かどうかの確認が常に必要である。	2020年度事業計画書
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	組織は広報、教務、就職という部署をメインにそれぞれが全体の中で効率的かつ有効に機能するようになっている。	それぞれの部署あるいは学校全体で目的、目標を達成するために機能している。	意思決定機能は効率的になっており、それぞれ問題点の早期発見、対策、実行というプロセスを構築している。	2020年度事業計画書
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	事業計画で組織図及び職務分掌を定め、それぞれの構成員の役割が明確になるようにしている。	組織を構成するそれぞれの構成員は各自の職務分掌と責任が明確となっている。	業務レベルが異なるが、各役割ごとの業務が割り振られており、明確になっている。	2020年度事業計画書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>事業計画を遂行し、学校・学科等組織の目標を達成させるためにも実行計画の中で特に意思決定機能は毎年見直し、効率的か否かを検証することが大切である。</p> <p>各段階を経た会議により、決定事項の周知徹底、コミュニケーションはできていると考えている</p>	<p>各会議で運営のチェックを行い、計画遂行の確認をするが、問題点の早期発見、対策、実行というプロセスを構築している。</p> <p>毎年、事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い、組織運営が行われている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	滋慶学園グループでは、「人は財産」、「人は成長する」という考えで、総務人事委員会を設置し、制度の向上とより有効な運用を心がけている。	非常勤講師を除く、人材採用は滋慶学園グループ全体の採用計画に基づき行われ、また各種研修制度において育成が行われる。	教職員に関する人材確保と育成は高いレベルでできているが、非常勤講師の専門力・指導力向上に関する研修を増やしていくことが課題。	2020年度事業計画書
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた制度を設けている。	数字達成だけではない業務過程も評価できるプロセス評価を導入するなど、公平・適切な評価が行われている。	定期的に職員の面談を実施し、業務の把握や問題点の解決を具体的に提示することが必要。	2020年度事業計画書
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた制度により、昇進・昇格の査定を行うなど、制度は整備されている。	昇進・昇給は適切な基準で行われているが、それ以外にも職場アンケートによる希望者の配置転換等も含め、職場環境の改善にも積極的に取り組んでいる。	定期的に職員の面談を実施し、業務の把握や問題点の解決を具体的に提示することが必要。	2020年度事業計画書
2-7-12 賃金制度は整備されているか	目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた制度により、給与査定を行うなど、制度は整備されている。	給与査定は適切な基準で行われているが、数字だけではない業務も過程の評価により、やる気や成長に結び付いている。	定期的に職員の面談を実施し、業務の把握や問題点の解決を具体的に提示することが必要。	2020年度事業計画書

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-13 採用制度は整備されているか	採用計画は滋慶学園グループ全体で人事採用計画に基づき、行っている。	新卒採用については、人事採用計画に基づき、定期採用を、既卒者については、各校の必要に応じ、適宜行っている。	採用計画はシステム化され、有効に機能しており、現状、特に問題はない。	2020年度事業計画書
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	教職員の増減については、事業計画にも関わるため、常に明確に把握している。	職員の増員のために、滋慶サービスと連携して中途採用活動を実施している。	現状は問題なし。	2020年度事業計画書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>滋慶学園グループでは、「人は財産」、「人は成長する」という考えであり、それゆえ、人事制度は大切な経営課題であるため、総務人事委員会を設置し、制度の向上とより有効な運用に心がけている。</p> <p>人事考課、昇給・昇格、賃金制度等については、目標管理制度に基づき、成果主義を取り入れた制度により、適正に行われている。</p>	<p>新卒採用については、人事採用計画に基づき、滋慶学園グループ全体として定期採用を行い、中途採用については適正人員を考え、採用を実施している。</p> <p>人材育成については、様々な研修制度を設け、成長できるように支援している。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	組織図に基づき、意思決定システム(各種会議、ミーティング)は確立され、また機能していると考ええる。	各会議の位置づけ等、意思決定システムは事業計画において明文化されている。運営組織としての迅速な意思決定システム確立は重要である。	会議での決定事項の周知徹底。決定事項の把握に個人差があるので、個別のフォローが現状以上に必要である。	2020年度事業計画書
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	意思決定プロセスとなる仕組みは、事業計画書で会議一覧(階層・権限別)にて制度化していると考ええる。	意思決定プロセスとなる仕組みとして会議を行うが、その会議の位置づけや形式などは学校運営を滞りなく行うために制度化している。	各会議で決定した事項の周知徹底の確認と個人差のフォローが現在以上に必要になると考える。	2020年度事業計画書
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か	組織図、会議一覧に基づき、意思決定の階層・権限は明確になっていると考ええる。	会議は、常務会、運営会議、学校全体会、定例会議、教務会議などに分かれ、それぞれの階層・権限の役割を果たしている。	常務会で決定した事項をその他の会議で落とし込む場合、経験度、理解度による差を生じないようにすることが必要。	2020年度事業計画書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
意思決定システムは、かなり高いレベルで確立していると考ええる。各会議は、会議の位置づけ等々を明確化しているが、重要なことは学校運営が滞りなく行われることである。学校運営で生じた様々な問題を早期に発見し、解決策を立て、実行することであるが、迅速な意思決定ができるシステムになっていると自負している。	学校の目標達成のため、その目標を前提として、個々の教職員一人一人が自分の目標を明確化し、それを日々の業務に落とし込んでいるが、各自が自分の業務を遂行することで、学校の目標達成に貢献している。その学校の目標や達成方法等を決定、周知徹底するのが会議であり、その内容により、それぞれの会議が行われる。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	業務効率化は常に課題として取り組んでおり、なかでもコンピュータによる情報システム化はその中核を成している。	滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム（ASシステム）により管理・運営している。	今後は情報システムの効率化だけではなく、新たなテクノロジーを導入して、更なる効率化を図る。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個別セクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されている。それは、業務マニュアル化とシステム化が推進されたことと、グループ内サポート企業のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。この業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多く持てるようになった。	<p>学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、そのため学生情報にブレがないシステム構築となっている。</p> <p>また、システムの効率化だけではなく、必要な場合、関連部署・企業との連携により、二重チェックできる体制もできている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 基準 3 教育活動

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、運営会議、講師会、教務会議などを定期的に行い常に見直し等を行っている。</p> <p>カリキュラムは学科（専攻）に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p>	<p>平成23年の開設以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門就職率 100%（就職者／専門分野就職者）</li> <li>2. 退学率 0%（入学者は全員卒業してもらう）</li> </ol> <p>を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。</p> <p>第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。 入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。</p> <p>第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。 これには、次の6つが挙げられる。 ①企業プロジェクト ②Wメジャーカリキュラム ③インターンシップ ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥就職・デビューである。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------



3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
---

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	各学科（専攻）の課題を明確にし、課題キーワードを抽出する。それにより、養成目的や教育目標の見直しを実施し、正しい方向づけをしている。	「業界調査」、「学科（専攻）調査」、「競合校調査」を実施し、人材ニーズの変化や業界そのものの変化を教育目標等に反映している。	業界からの意見をより多く取り入れ、より強固な業界との協力関係を作っていく必要がある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科（専攻）の教育目標、育成人材像は、その学科（専攻）に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけるため、「業界調査」、「学科（専攻）調査」、「競合校調査」などを実施し、その内容を反映している。	各学科（専攻）は業界人である講師から常に最新のニーズや情報等を引き出し、キャリアセンターは学内合同企業説明会や企業訪問、業界研修等々により、業界情報、ニーズを抽出、確認している。それらを総合的に協議した上で、教育目標、カリキュラム等々へ反映させ、業界で即戦力となりうる人材育成に役立たせている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	学年毎の到達目標や学期毎の目標を設定し、修業年限の中で、確実に到達できる水準を定めている。	学期ごとの課題や、卒業・進級制作展などの授業の成果を見せる展示会や、講演などを行い、学びの成果を出すイベントを定期的開催している。	大きな目標に対しての取り組みは引き続き行い、個々の課題が解決できるものを引き続き作っていく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学年毎の到達目標や修業年限の中で確実に到達できる水準を定めている。教育期間内での到達に関しては、目標に即したシラバスによって果たしているが、年度当初にシラバスを作成し、学生に対して事前に周知し、具体的な取り組みに繋げている。	アニメ・声優・e-sports業界で即戦力となるカリキュラムの構築、方針・計画を策定し、修業年限内で確実に教育目標を到達できるように取り組んでいるが、常に業界のニーズを把握し、乖離しないように心がけている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	目標達成に十分なカリキュラムが体系的に編成されている。	入学前～卒業までの動機・目的意識づけるシステムと「アニメベーシック」・「声優基礎」・「業界研究」というシステムの体系的編成をとっている。	「アニメベーシック」・「声優基礎」・「業界研究」などを通して、業界で必要な基礎部分の構築を行う。	2020年度学生便覧
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	カリキュラムは業界人である講師の意見、卒業生の就職による業界企業の意見等を反映している。	業界人である講師の意見や業界企業への調査を実施し、教育目標、カリキュラム等へ反映している。	「産学連携教育システム」によるカリキュラム構成をさらに進化させるため、業界との交流を深める努力が必要である。	2020年度学生便覧
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	カリキュラムは「アニメベーシック」・「声優基礎」・「業界研究」という基礎～実践の編成であり、その体制は明確になっている。	講師会、企業交流会などを実施し、カリキュラムや教育方針を研究・決定する体制をとっている。	現状、予定通り進めているので、引き続き進めていくことが大事。	2020年度学生便覧
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	カリキュラムは、定期的に見直し、講師、業界からのアドバイスを取り入れる体制にある。	「講師会、企業交流会」では業界状況・ニーズを把握し、カリキュラムや教育方針の見直しをしている。	年度内で変更が必要な場合は、早い時期（後期等）からでも見直す準備の必要はある。	2020年度学生便覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育目標を達成させるためにあるカリキュラムは、教育における最も重要な要素であり、常に最新、最良でなければならない。そのために、いかに業界のニーズを的確に捉え、カリキュラムに反映させ、学生たちが体系的に修得できるかが重要であるが、本校ではそれができていると考える。	カリキュラムは「アニメベーシック」・「声優基礎」・「業界研究」など、基礎を中心に学びながら、無理なく体系的に修得できるようになっている。また、本校独自のシステム「Wメジャーカリキュラム」（選択科目）は、他専攻の授業を履修することで、幅広い視野をもたらすことを目的としている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	基礎科目から専門科目、実践（応用）科目まで、各科目は適切な位置づけのもと、構築されている。	各科目は毎年見直しを行い、また科目担当の教員（非常勤講師）と綿密な協議を重ねており、適切に位置づけを行う。	各科目を決定する上で、教員（非常勤講師）だけではない業界人（業界）から情報を収集し、フィードバックする必要がある。	
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	シラバスは各科目、前期・後期15週分、指導内容や授業方法、使用教材等を示し、作成されている。	毎年、各科目担当の教員（非常勤講師）がシラバスの原案を作成し、専攻担当者と綿密な協議の上シラバスを作成している。	各教員（非常勤講師）により、シラバス内容にバラつきがないように、各専攻担当者が細かくチェックする必要がある。	
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	シラバスは各科目、前期・後期15週分、それぞれ1コマの授業内容まで作成されており、学期始めに学生へ周知し、到達目標を共有する。	各教員（非常勤講師）により、シラバス内容にバラつきがあるため、内容のレベルを統一する必要がある。	各教員（非常勤講師）により、シラバスの考え方に差があるため、各専攻担当者が細かくチェックする必要がある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>「実学教育」「人間教育」「国際教育」の理念のもと、入学時から卒業時までの過程及び卒業時のゴール（到達目標）をしっかりと定め、各学年、各学期で適切な科目履修ができるようにカリキュラムが組まれている。</p> <p>また、各科目は産学協同教育システムにより、配置及び位置づけがされている。</p>	<p>業界で活躍している非常勤講師や業界の企業と連携を図りながらカリキュラム作成を行っているため、適正である。</p> <p>また、シラバスに関しても、非常勤講師にだけに任せず、専攻担当者がチェックを行うことによって、よりブラッシュアップされている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	各専攻のカリキュラムは、専門分野のカリキュラムのみならず、社会的・職業的自立ができるよう、キャリア教育が行われている。	キャリアセンターが中心となり、「将来設計力」「職業力」を養う講座やイベントを行い、成果をあげている。	一応の成果は上げているが、まだまだ消極的、他力本願な学生がいることは否定できず、それらの学生の自立が今後の課題である。	
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	業界の評価をフィードバックしているが、本校が実施しているキャリア教育は有効に働いており、その実効性は検証されている。	「コミュニケーションスキル」などカリキュラムに積極的に取り組んでいる結果、人とコミュニケーションがとれる人材になっている。	業界研修等々、どのような状況であっても、評価されるように、様々な対応ができる応用レベルまで引き上げることが必要である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学時から卒業時までの2年間の過程の中で、学生各自がしっかりとしたゴール（到達目標）を定められ、社会的・職業的自立を目指し、かつ「社会に貢献できる人材」となるべく、キャリア教育の視点に立った適切なカリキュラムが組み立てられ、それを実践できる教育方法が取られている。	本校には「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」という理念があるが、社会的自立のために「人間教育」が、職業的自立のために「実学教育」、「国際教育」がそれぞれ大きく役立っている。 「コミュニケーション力」、「プレゼンテーション力」がつくよう、「プレゼンテーション」、「インディペンデント制作」という科目も設け、積極的に取り組んでいる。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	授業アンケートなどを全学生に行い、各講師の授業内容や評価を把握に努める。	前期・後期で、学生による授業評価を行い、各講師及び学生へフィードバックしている。	授業アンケートの中身を見直し、双方にとってより良い内容に常にしていくことが必要である。	
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	各講師の授業内容についてはシラバス作成時に、授業評価については、アンケートデータを分析し、把握する体制を整えている。	各授業内容の計画や教授方法等については、各専攻でシラバス作成時に講師と協議を重ね、方向性を確認している。	講師は業界のプロであるが、専攻のスタッフはそうではないので、授業の細かいところはまではなかなか指示することはできない。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業改善や教員（非常勤講師）専任スタッフ（職員）の資質向上を図るため、授業評価システムは重要と考える。評価体制は、年2回（前期・後期）授業アンケートを通じて行い、状況把握を行なっている。	授業アンケートをもとに、講師会や講師個別面談を実施し、その結果を出る限り有効に利用できるようにしている。また、アンケートは質問項目だけでなく、記述できるようにもしており、その中から問題点の抽出もしている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件(専門性・人間性・教授力・必要資格等)を備えた教員を確保しているか	本校の理念、教育目標等を充分理解し、専門性と人間性を兼ね備えた人材を教員(非常勤講師)として確保している。	各専攻の業界で活躍する業界人を教員(非常勤講師)として確保するため、担任、教務部長他で情報を蓄えている。	常に業界にアンテナを張り、より良い教育ができる教員(非常勤講師)確保を図ることが大事。	
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	本校では、教員は業界人である非常勤講師を基本とし、教育成果を上げるため、レベルの高い人材を確保している。	教員(非常勤講師)を採用する場合、現行の講師から情報を入力したり、紹介を受けたりし、レベルを把握できるようにしている。	卒業生の評価をフィードバックすることで、それぞれの教員(非常勤講師)の評価にもつなげると考える。	
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	授業アンケート等により、授業内容を検証し、スキル・マインド、その他を把握評価する。	年2回、授業アンケートを実施し、授業内容、スキル、マインド、問題点を把握し、面接の上、評価している。	専門性が高いことと、教授力や人間性が高いことは別であり、両立が難しい場合もある。	
3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	教員である非常勤講師間で勉強会を実施し、専門性向上に役立たせている。	教員である非常勤講師間で勉強会を実施し、専門性向上に役立たせているが、現状、それ以上の研修等は難しい。	分野ごとの講師に対する研修を更に充実させることが必要である。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	教授力だけではなく、マインド、コミュニケーション等、目標達成にむけ、様々なことを把握できるようにしている。	授業アンケートにより、スキル・マインド等のデータを出し、また問題点を抽出している。	授業アンケートのデータを中心に、問題点を洗い出し、教員(非常勤講師)と話し合う機会を多く持つことが大事である。	JESC(滋慶教育科学研究所)研修一覧
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	滋慶学園グループでは、スキルだけではなく、マインドをも重要と考え、向上のための研修を行っている。	JESC(滋慶教育科学研究所)が中心となり、スキルアップやマインドアップの各種研修を行っている。	JESCが中心となり、学生指導のスキルアップやマインドの研修は行っている。個々のばらつきはあるが、引き続き行っていく。	JESC(滋慶教育科学研究所)研修一覧
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	教員と非常勤講師は常にコミュニケーションを重要視し、協議を重ねて、目標達成を目指す。	教員と非常勤講師は常に意見交換や協議を重ね、状況把握をしており、適切な協業もしている。	各専攻では、教職員と非常勤講師が協議を行なっているが、今後は個々の学生レベルまで細かい協議も必要である。	
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	各非常勤講師は日頃、特定の曜日、時限しか担当していないため、講師間のコミュニケーションを特に重要視している。	講師会や講師勉強会を実施し、意見交換や授業内容等の協議を重ね、それぞれの状況を把握し、協業もしている。	お互いの授業を常に見れるわけではないので、講師間で協業がしやすい環境づくりが必要である。	



点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	滋慶学園グループの理念や方針を理解し、実行できるか否かということが基本となる。	急な欠員が出て、学生に迷惑をかけるまいよう、先を見越した補充計画をしているが、現状、充足している。	良い講師であっても、年月を重ねるとマンネリも出てくるため、その兼ね合いが難しくなってくる。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では、基本的に教職員は学科・専攻のマネジメント、学生指導に専念し、授業は業界人である非常勤講師が行っている。そのため、講師の採用には厳正を持って行い、技術・知識だけではなく、人間性の部分においても高いレベルの指導ができる人材を講師として採用している。	講師の採用においては、担任からの推薦で、教務責任者である教務部長の面接を経て、最終、学校責任者の面接により決定している。採用基準で一番重要に考えているのは、人間性の部分においても高いレベルで指導できる人材かどうかということである。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は明確な規定を設け、学生便覧に記載している。	成績評価・単位認定は、ASシステムで計算され、成績通知書や証明書が出力される。	現状で特に問題はない。	
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	学則にも単位互換を記載しているが、それぞれの科目内容や単位内容を確認した上での判断になる。	現状、他の高等教育機関からの編入学ないため、単位互換に明確な基準を作る必要性が低い。	今後、編入学が増えて来た場合、ある程度の基準は必要になるかもしれない。	2020年度学生便覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定については、学則に則り、明確な基準を設け、学生便覧にも記載している。 また、教職員、講師、学生に周知徹底している。	学生便覧に記載し、ガイダンス時から学生には徹底している。講師にも教育指導要領に記載して詳しく説明し、理解・対応してもらっており、周知徹底できていると考えている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 3-18 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	就職のために必須の資格というものはないが、業務において有利になるような資格があれば、適宜受験させている。	業界的に資格取得よりも技術・知識・経験値が求められる傾向があるので、必要な資格があれば取り入れていく。	進路となる企業や業界団体からも情報を収集し、必要な資格があれば取り入れていきたい。	
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	資格取得が必要であれば、カリキュラムや授業外でも取り組める体制は整っている。	必要であれば、適宜取り入れる体制は整っている。	進路となる企業や業界団体からも情報を収集し、必要な資格があれば取り入れていきたい。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職に向けて必須の資格や検定というものはないが、業務において有利となる資格があれば適宜取り入れていく体制は整っている。	業界的に、資格取得を目的としてないので、進路となる企業や業界団体からも情報を収集し、必要な資格があれば取り入れていきたい。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 基準 4 教育成果

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職率（就職者／専門分野就職者）100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、就職率（就職者／就職希望者）100%を目標としているが、専門就職率、就職対象率の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>退学率では、開設以来、様々な取り組みの努力を重ねた結果、現在、2019年度は4.3%（全体退学率）という数字となっている。</p> <p>今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜しむことはない。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、年々、専門就職率が向上しているが、100%を達成すべく、努力を続けている。</p> <p>また、できるだけ多くの学生に夢をかなえて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。</p> <p>学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、転科・転専攻等の個別カウンセリングの強化、スチューデントサービスセンターとの連携を強化し、1人でも退学者を出さない学校になるべく、努力している結果、現在2019年度（全体）では、4.3%となっている。</p> <p>今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-19-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	本校は専門分野を生かした専門職への就職を目指している。	キャリアプログラムを通して、社会人基礎力を高め、履歴書の作成、面接指導、ビジネスマナーなど、就職活動に向けた身構え/気構え/心構えを指導している。	就職率は高い水準を保っているが、今後第一専門職へ就職していける割合を増やす為、ポートフォリオ制作授業等を通し、しっかりとサポートしていく。	(シラバス)キャリアプログラム
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	就職部署であるキャリアセンターにて管理を行っている。	毎月末に本学園本部への報告用として、情報の集約を行っている。	就職者の離職率低減、また転職・再就職のための卒業後支援を活性化させるためにも、今まで以上に卒業生の情報を把握していく必要がある。	

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
第一専門職種へ就職するために、各専門的な知識や技術以外にも、コミュニケーションスキルやマネジメントスキルも近年は求められている。 カリキュラムの中や日々の学生との接し方の中にも社会人としての意識づけを行っていく。	時代の流れと共に、対人のコミュニケーションスキルが年々弱くなってきている。学校で学ぶ中で、コミュニケーションの重要性を学び、社会人基礎力を高めることが大事。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 4-20 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか	就職のために必須の資格というものはないが、業務において有利になるような資格があれば、適宜受験させている。	業界的に資格取得よりも技術・知識・経験値が求められる傾向があるので、必要な資格があれば取り入れていく。	進路となる企業や業界団体からも情報を収集し、必要な資格があれば取り入れていきたい。	
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	毎月の学園本部報告を実施しており、情報は明確に把握する。	学内、学園内で常に共有している。	現状特に問題なし。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職に向けて必須の資格や検定というものはないが、業務において有利となる資格があれば適宜取り入れていく体制は整っている。	業界的に、資格取得を目的としてないので、進路となる企業や業界団体からも情報を収集し、必要な資格があれば取り入れていきたい。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 4-21 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	各担任との定期的な個別相談や、スクールカウンセラーなどを配置し、取り組みが行われている。	現在、意欲喪失等の理由が増えているため、面談等で学生の状況を確認している。	近年、精神的な病気の学生が増えており、その学生たちをいかにサポートして、卒業させてあげられるかが課題である。	
4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	毎年、入学者と退学者は推移の情報を把握、管理し、滋慶学園本部に報告することになっている。	常に状況把握をし、報告できる体制が整っている。	現状問題なし。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、入学者目標と退学者目標を設定し、目標の達成度合いを確認・管理しているため、各年度の数字は明確になっている。退学率の低減も教育成果の重要な1つと考え、取り組んでいる。	各専攻の問題学生の状況を教務部全員で共有し、解決に向けて努力を重ね、最終目標である退学率0%に向け、さらなる努力を惜しまない。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	卒業生・在校生の社会的活躍・評価は教育成果そのものであり、また目標達成の努力の結果である。	在校生の活躍は教務部を中心に学校として把握し、学校新聞である「COMTODAY」等に掲載している。	就職した卒業生が学校に相談することなく、個人的に職場を変った場合、情報を把握できない。	
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	卒業生のデビュー・就職状況を常にチェックし、HP等で記述できる環境を整えている。	パフォーマンスアート科卒業生の和気あずみや新井雄也など、多くの卒業生が業界で活躍している。	卒業後、学生からの報告がないと把握するのが難しく、卒業後も情報交換が必要である。	
4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	産学連携教育システムとして、企業プロジェクトや企業課題等に取り組んでいる。	企業プロジェクトを積極的に取り入れ、実際の現場で採用されることも多い。その結果が、学生の将来の実績となり、デビュー・就職につながっていく。	突発的なものも多いので、常に取り組める環境づくりを業界と作っていく必要がある。	
4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	学校パンフレットやHPなどで、常に記述できる環境を整えている。	「コレコレアニメイラストコンテスト」などコンテスト受賞作品やきぎよとの取り組みを記述している。	年度によってのクオリティ差やコンテストの開催有無があるので、常に業界との連携が必要である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生・在校生の社会的活躍・評価は、本校の教育成果そのものであり、教育成果は目標達成の努力の結果である。</p> <p>専門就職率100%、退学者0%を教育成果の最終目標として学校運営を行っている。</p>	<p>常に業界と連携を図り、在学中に関われる題材や、卒業生の活躍などを取り入れ、社会的な評価を得られる環境づくりをしていく。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------



## 基準 5 学生支援

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。</p> <p>しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC（スチューデント・サービス・センター）という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>また、学生の課外活動である部活動・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「学生=お客様」というコンセプトでを持ち、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。</p> <p>このような支援体制の下、就職率（就職者／就職希望者）は100%を目標とし、また専門分野への就職率である専門就職率においても100%を目標としている。</p> <p>「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。</p> <p>即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 5-23 就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-23-1 就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	就職の専門部署であるキャリアセンターを設置し、専門スタッフが学生の就職指導にあたる体制をとっている。	校舎内にキャリアセンターとカウンセリングルームを配置し、学生の就職支援体制を取っている。	学校として、就職に対する支援はかなり整備されており、特に全体的な課題はあまりないと考える。	
5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか	就職の部署であるキャリアセンターが校内合同企業説明会を実施している。	年2回、校内に企業を招聘し、合同企業説明会の実施、特定業界の企業を数社招聘し、学内面接会等を実施している。	就職に対しての意識づけを常にしていかないと、活動が遅くなる傾向があるので、定期的な面談とキャリアプログラムの充実化。	
5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	就職の部署であるキャリアセンターを設け、学生に関する個別相談を実施している。	キャリアセンターは就職対策講座（授業）や個別カウンセリングを実施し、学生指導を行っている。	就職活動に個人差が出てしまうので、学生のモチベーションを常に上げていかないといけない。	
5-23-4 就職の具体的な活動（履歴書の書き方など）に関する指導を実施しているか	就職の部署であるキャリアセンターを設け、具体的な学生指導を行っている。	キャリアセンターは就職対策講座（授業）や個別対応で具体的な学生指導を行っている。	対人コミュニケーションが苦手な学生が多く、模擬面接を通じて引き続き指導を行っている。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では、専門分野での就職を第一に考え、就職の専門部署であるキャリアセンターを設け、専門スタッフが個別指導から就職イベント開催まであらゆる就職支援を行っている。また、インターネットによる求人アクセスや情報のメール送信、就職指導ノートの作成まで、情報やノウハウ体制の確立を行っている。	年に2回行う「合同企業説明会」や単独企業説明会などの就職イベントを開催したり、また、業界研修指導まで、学生のためのあらゆる支援として、キャリアセンターが中心となった活動を行っている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-24-5 学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	個別相談・面談のできる環境を整備している。担任、副担任制度の実施により複数のスタッフが一人の学生のサポート体制を行っている。	通常の担任体制、スクールカウンセラーなど、十分な支援体制にあると考える。	学生は相談の時間を選ばないため、担当職員の労働力に限界がある。直接面談だけではなく、メール等でのコミュニケーションの強化を図る。	
5-24-6 学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	スクールカウンセラーを常駐させ、担任と連携をとり、情報共有を行っている。	スクールカウンセラーが常駐し、相談に応じており、成果を上げている。	細かなサポートができていますので、引き続き行っていく。	
5-24-7 留学生に対する学生相談体制は整備されているか	留学生専任スタッフと留学生センターが連携し、サポート体制が整っている。	留学生センターと担当スタッフが連携を図り、充分に対応している。	留学生の出席状況を常に共有できているので、引き続き連携を図っていく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の相談については、基本的なものは担任が行うが、担任にも相談できないと考える悩みはSSC（スチューデント・サービス・センター）という部署を設け、その解決にあたっている。</p> <p>SSCは学校側に専用施設がありトスクールカウンセラーによるサポートを行い担任と連携をとりながら効果をあげている。</p>	<p>SSCを利用した学生については、本人の了解のもと、専任のカウンセラーより、今後の学生生活や受講に関しての相談を担任や講師、保護者と連携して行い、心身共に良い状態で学習できる環境を整えている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-25-8 奨学金制度は整備されているか	本校は日本学生支援機構の奨学金対象になっており、また、全国の地方自治体奨学金一覧も作成しており、整備されていると考える。	奨学金担当者を定め、常に学生が相談できる環境を整えている。ただ、学生自身が把握していないことも多く、指導が必要。	卒業後の返還に対する意識を在学中に持たせることが大事。その為に、奨学金セミナーや、返済プランの組み立てなどのセミナーが必要である。	学費サポート &奨学金のご案内
5-25-9 学費の分納制度はあるか	事務局会計課スタッフが担当し、学費の分納・延納等に詳しく相談になるなど、体制は整っている。	学費延納・分納は奨学金を利用して行っているが、なかなか計画通りにいかない場合がある。	今後の進学時・卒業時に未納の可能性はある。個別の面談を適宜実施し、サポートをする必要がある。	学費サポート &奨学金のご案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>日本学生支援機構の奨学金対象となっており、また、地方自治体奨学金一覧も作成し、支援できる体制はとっている。</p> <p>また、銀行やローン会社の教育ローンも案内できるよう、体制はできている。</p> <p>さらに、事務局会計課にファイナンシャルアドバイザーを置き、あらゆる相談に応じられるよう体制を整えている。</p>	<p>奨学金、教育ローン、分納・延納等々の情報をまとめた「学費サポート&amp;奨学金のご案内」を作成し、様々な相談に応じられるようにしている。</p> <p>また、事務局会計課のファイナンシャルアドバイザーがあらゆる分納・延納に対する相談に応じており、支援体制は整備されていると考える。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-26-10 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	毎年、4月に在校生・新生と共に校内で健康診断を行い、再検査が必要な場合は、慶生会クリニックへ行かせるなど、支援体制はある。	十分な連絡・指導を行っている結果、限りなく100%に近い受診率に繋がっている。	初めての一人暮らしで、栄養バランスが崩れている学生もいるので、面談等で体調面の確認もしていくことが必要。	健康診断案内
5-26-11 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	慶生会クリニックとの連携もとれているので、十分な体制にあると考える。	担任が慶生会クリニックと相談の上、学生へアドバイスをもらう場合があるなど、体制はできている。	慶生会クリニックで対応できない場合は、他医療機関を紹介してくれる場合もあるので、学生からの相談にはかなり応じられていると考える。	慶生会クリニックパンフレット

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>滋慶学園グループには、教職員・学生の健康管理面をサポートする「慶生会クリニック」があり、新生・在校生及び講師に周知徹底しており、多くの利用者を数えている。</p> <p>クリニックには、内科・歯科があり、健康診断から個人的病気まで幅広く対応できるようになっている。</p>	<p>慶生会クリニックは、学校と連携することもできるので、遠方から入学している学生も安心して受診することができる。</p> <p>また、学校、担任とは綿密な連携をとっており、学生指導の徹底に役立っている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-27-12 スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	年間予算と発表会の場を確保し、担当職員を決め、部活動・同好会活動を行う学生を支援しており、体制は整っている。	担当者は定期的に発表会を開催し、部活動・同好会活動をサポートしている。	部活によっては、専門的な技術を要する場合もあり、少人数にとどまっているグループもある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校では、開校年度より、部活動・同好会活動を支援しており、学生の満足度にも繋がっている。</p> <p>その活動においてははを守り、挨拶やコミュニケーションをはかり、相手の立場や自分が今何をすべきか等を理解でき、教育上も大きな意義がある。但し、学業との両立が前提であり、教職員が充分注意を払っている。</p>	<p>本校では、学校全体予算の中に、部活動・同好会のための年間予算を計上し、支援体制を整えている。</p> <p>予算は施設を借りる費用から、用具・機材等まで支援しており、学生に負担がかからず、かつ、モチベーションの向上をはかれるよう整備している。</p> <p>現在はアイドル部、歌ってみた部、コスプレ部など数多くの団体がある。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-28-13 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	サポート企業であるジケイ・スペース(株)の学生寮本部が担当し、寮の環境を整えている。	葛西・西葛西地区に、男子9棟、女子9棟を保有し、食事付、なしなど希望により、選択できるようになっている。	在学中に卒業後の住まいや生活に関してのサポートが必要不可欠である。	学校案内書 寮案内書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
遠方より入学する学生と保護者にとって、学生寮は学校選びの安心要素の1つであるが、本校は滋慶学園グループのサポート企業であるジケイ・スペース(株)の学生寮利用や提携企業の住居斡旋等、あるいは滋慶学園のクリニックである慶生会クリニックの無料利用により、生活環境への支援は行えていると考える。	滋慶学園グループのクリニックである、慶生会クリニックが学生寮及び最寄駅に近い距離にあるため、多くの学生が利用しており、学生のみならず、保護者の安心感にもつながっているが、このことは出席率の向上にも寄与している。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 5-29 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-29-14 保護者と適切に連携しているか	新入生及び卒業年度生の保護者を対象とした、保護者会を開催している。	年に一回保護者会を開催しており、学生の現状共有を担任と共に行っている。	問題のある学生の保護者ほど、参加しない傾向にあるので、個別対応も必要になる。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の夢を叶えるためには、保護者との連携が重要である。本校では、4つの信頼というコンセプトを掲げているが、「学生・保護者からの信頼」として、保護者の信頼を得ることもその1つであり、そのためには適切な連携をとることが重要である。</p>	<p>担任は日頃から学生だけではなく、保護者とも連絡をとるように心がけているが、保護者会、地方保護者会を実施し、常に保護者と適切な連携をとることを重要と考えている。このようなことが、退学率の低減に結びついていると考えている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------



## 5-30 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-30-15 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	卒業生間のネットワーク構築促進を目的に、全卒業生を対象に大同総会を予定。	同窓会組織を確立していく予定であったが、実施が出来ていない状況。	学内キャリアセンターが中心となり、担当卒業生と連携の上、同窓会を開催する。	
5-30-16 卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	転職・再就職・デビュー等の個別支援を実施する等、卒業生のフォロー体制は整備されていると考えている。	キャリアセンターより、卒業生へ定期的な連絡を行い、就職後の状況の把握。キャリアチェンジへの相談を行っている。	同窓会の開催を通し、就職後の卒業生の状況を把握すると共に、今後のキャリアについての相談とサポートを実施する。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
1期生より同窓会組織を設け、卒業生の支援を行っていく。	卒業生の生涯教育の一環として、卒業後就職サポートも実施し、支援体制の強化をはかる。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 基準 6 教育環境

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境（施設・設備、機材等）の整備は重要であるが、完備されていると考える。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の環境（業界研修、学外演習、海外実学研修）も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。</p>	<p>オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、どこにも負けない最新・最良のものを整備している。</p> <p>事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設・設備を完備する考えで運営しており、必要十分と考えている。	施設・設備は業界のプロが使用するものを十分に整備しており、それゆえ即戦力の人材を育成できていると考える。	新学科、新専攻を立ち上げる時の、どこまでの施設・設備、機材が必要は判断に迷うこともある。	
6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	施設・設備はサポート企業、提携企業等による管理・維持が主で、十分なメンテナンス体制を確立していると考えている。	施設・設備、機材はプロを目指す学生が使用するため、細心の注意を払う使用により、メンテナンスも最小限に留まっている。	メンテナンス体制は整備されているが、メンテナンスするよりも、購入する方が安価な場合もあり、判断を必要とする場合がある。	
6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	施設・設備等の更新は、即戦力の人材育成には欠かせず、常に計画を立て、更新できていると考える。	事業計画において施設・設備等に関する計画を立て、予算も計上しているため、計画通りに更新できている。	機材は年々新しくなるので、見極めが大事。 授業を行う講師とも連携して、確認していく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備、機材等は業界で即戦力となり得る人材を育成するためのものであり、最新・最良のものを完備する考えで運営しており、教育上、十分な対応ができていると考える。事業計画において計画を立て、予算を計上して計画通りに更新もできている。	施設・設備、機材等は予算をかければ揃うものであるが、本校では、常に教職員が学生の教育効果を考え、同じ予算であってもどれが最良のものかを考え、選択し、購入する。また、事故防止等のためにはメンテナンスも重要で、サポート企業、提携（関連）業者と綿密な連携をとって行っている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	全ての連携が整われ、業界・国際部等と連携をとっており、その教育体制は整備されている。	学外演習は教務部、業界研修はキャリアセンター、海外実学研修は国際部がそれぞれ十分な連携を取り、その教育体制を整備している。	海外研修においては、費用との兼ね合いもあり、全員が参加できていないので、行程の見直しを行い、参加率向上を目指す。	業界研修先一覧 海外実学研修 一覧
6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	本校では学外演習等々、あらゆる項目について実績を把握し、それぞれの成果検証を行い、教育改善に取り組んでいる。	学外演習は教務部、業界研修はキャリアセンター、海外実学研修は国際部がそれぞれ学生から効果を確認し、改善にも努めている。	業界研修の教育効果の度合い等は個々の学生によって異なるため、次年度、別の学生に同様の効果があるかは不明であり、判断は難しい。	業界研修先一覧 海外実学研修 一覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は即戦力の人材育成を目的としており、そのための教育体制は整備されている。学外実習先、業界研修（インターンシップ）先とは綿密な連携をとり、十二分な学習環境を設定している。また、海外実学研修では、それぞれの専攻等において大きな学習効果の得られる教育機関と提携し、ワークショップ他を行っており、十分な教育体制を整備していると考え。	業界研修（インターンシップ）を行っているが、この業界研修はかなりの学習効果、教育成果を上げており、毎年、この業界研修から多くの就職内定に結びついている。 また、海外実学研修は本校の建学理念の1つである「国際教育」実現に大きな役割を果たしている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 6-33 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-6 防災に対する体制は整備されているか	教職員は常に災害を意識し、それに備えた体制を整備している。	防火管理責任者の選出、マニュアルの整備、役割分担、学生への情報提供など、体制は整備されている。	北葛西校舎として、TCAカーデザインコースとフロアを分けて、2校の学生がいるため、両校での連携と定期的な防災訓練が必要となる。	防災マニュアル 防火管理責任者選出届 防災訓練DVD
6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	必要性がない限り、災害を起こす可能性のある設備・機器を設置しないことが一番であり、それを第一に考えている。	特に火気を使用する授業がないため、出火に関する情報はないが、万一に備えた避難経路等の情報は掲示したりしている。	万一の火災に備え、消火設備、消火器の点検を怠らないことが重要と考え、サポート企業との連携を心がけている。	
6-33-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	演習を行う授業は教職員・講師が常に事故を防止するための十分な注意と対策を講じられるよう、周知徹底しており、体制は充分と考える。	万一、事故が発生した場合、連絡方法、処置方法を教職員・講師が熟知したルールに則り実施しているため、体制は充分と考えている。	校外演習時に十分な対策を講じられるよう、マニュアル作成、体制作り、臨時緊急連絡網作成等が必要であると考えている。	
6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	内外での教職員、学生の万一を想定し、障害保険等へ加入し、備えている。また、校外学習に関しても随時 保険加入を徹底している。	例えば、学生は障害保険に加入しており、授業中はもちろん、研修中、通学途中まで対象として処置しており、充分と考えている。	東日本大災害のような大規模災害や新たな障害も考えられるため、保険の内容を見直す必要もあると考えている。	学生障害保険資料

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-10 防災訓練を実施しているか	防火管理責任者を選出し、消防署指導による避難訓練、サポート企業による防火訓練を実施し災害に備えている。	学生には消防署指導による避難訓練を、スタッフにはサポート企業による消火器具を使用しての防火訓練を実施している。	定期的な防災訓練を実施しているので引き続き行っていく。	避難訓練実施要項

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では、教職員が常に災害を意識している。教職員、学生の防災訓練を実施し、地震や火災等の際の避難訓練経路を確認するなど、防災体制を確立し、チェックしている。	教職員対象の防火訓練、教職員・学生対象の避難訓練を毎年実施し、災害に備えている。そのため、マニュアルを整備し、教職員の役割分担作成・確認、学生への情報提供など、体制は整備されている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 基準 7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、社団法人東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（AO入試等も）を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージをどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報責任者等が常にチェックしている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 7-34 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-34-1 学生募集活動は、適正に行われているか	対外的ルールの遵守、過大広告の排除等々、学則を基に、その年度の入学案内書、学生募集要項通りに適切に行っている。	社団法人東京都専修学校各種学校協会（加盟）のルール（時期、内容等）を遵守し、また広告倫理委員会を設置、過大広告の排除、個人情報保護を行う。	個人情報保護の関係で、就職実績（卒業生や内定者）は承諾者しか出せないため、企業・会社情報だけの一覧表になってしまい、現実味・迫りに欠ける。	学校案内書 学生募集要項 体験入学資料
7-34-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	入学案内書、学生募集要項は十分に学校の内容、諸費の内容が理解して頂けるように留意し作成されている。	入学案内書は各専攻内容や全体の学校情報等々、充分にご理解頂けるよう、また学生募集要項は保護者の方にもご理解頂けるような内容となっている。	昨今は、媒体誌等よりもネット（Web）での認知が多いため、HPの整備にも非常に力を入れる必要がある。	学校案内書 学生募集要項 体験入学資料
7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	入学事務局を設置し、問い合わせや相談内容に対応する部署が整備されている。	入学事務局を中心に各種手続きや相談の対応をしている。	電話だけでは伝えにくい部分があるので、保護者も含めて来校の促しを行っている。	学校案内書 学生募集要項 体験入学資料
7-34-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	高校1・2年生から長期にわたる広報活動を行い、募集定員を満たすべく、あらゆる方策を試みている。	入学前教育で自己発見、目的意識開発等、体験入学を通じ、いかに興味や自分に合うものを見つけようかを最大限にアピールしている。	年度よっての希望者のばらつきがあるため、時代の流れにあった募集活動が必要。	学校案内書 学生募集要項 体験入学資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集活動は、学則を基に、その年度の学校入学案内及び学生募集要項の通りに、また、本校が加盟する社団法人東京都専修学校各種学校協会が定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守しており、適正に行われていると考える。広告倫理委員会、個人情報委員会も設置し、過大広告の排除、個人情報の保護も力を入れており、学生募集に配慮している。	学生募集活動は、高校1・2年生という早い時期から長期にわたって募集し、体験入学を通じて、学校・学科・専攻内容を熟知してもらい、また、各種相談にもり、不安や問題点を解消してもらった上で出願につなげており、志願者や保護者には充分ご理解を頂ける機会、時間を設け、適正に行われていると考える。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------



## 7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-35-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	年度ごとの就職実績をまとめ、多くの方が知ることができるようになっている。	学校説明会やパンフレットなどに掲載し、広く伝えることができる。	パンフレットなどではすべて伝えきれないので、別冊などを使って対応していく。	
7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	入学選考などで、卒業生の活躍に影響を受けたかどうかの調査を行っている。	入学選考などで、卒業生の活躍に影響を受けたかどうかの調査を行っている。	パンフレットなどではすべて伝えきれないので、別冊などを使って対応していく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果は年々積み重なっていくので、多くの方に知ってもらえるように、学校説明会やパンフレットなどで広く伝えていくことが重要である。	教育成果を基に学生募集を行い、より良い学びができる環境づくりを引き続きおこなっていく。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	本校では、選考基準を教職員全員が同じレベルで共有しており、公平な基準で行われている。	面接担当者を定め、選考基準に照らし合わせて行っている。 面接シートに細かな状況を記載し、情報の共有も学内で行っている。	現状問題なし。	学生募集要項
7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	入学事務局と教務部が常に連携を取り、入学選考に関する情報等々を正確に把握している。	入学事務局とが中心となり、情報共有し、入学選考後の状況も把握している。	入学辞退などのイレギュラー対応にも対応できている。	学生募集要項

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学則を基にし、学生募集要項で明記した入学選考方法通りに選考しており、選考は適正かつ公平な基準で行われていると考えている。また、入学選考は、学生募集要項に明記された日程で実施し、選考後は、「選考会議」(入学基準に達しているか、否かを選考する会議)で基準に基づき合否を確定している。	本校の選考方法は、学生募集要項にも明記しているが、「面接選考」及び「書類選考」である。その基準になるのは「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認するもので、全教職員が共通の公平な基準で選考している。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 7-37 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	学納金はその学科・専攻の教育目標達成を目指した学校運営に必要な金額であり、妥当なものと考えている。	学納金は人件費(講師・教師)、実習費、施設管理費、運営費等々に当てられるが、無駄を省き、適切に使用されていると考える。	学納金は、無駄を省き適切に使用されている旨を、学生及び保護者に引き続き説明し、理解を得られるよう努力をしていく。	学生募集要項
7-37-10 入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	入学辞退者に対する納入済費用の返還については、最高裁の判例に従い、適切に対応していると考えている。	入学選考料、入学金は返還しない。授業料(学費)等については、当該年度3月31日までに申し出があった場合は返還している。	引き続き対話を通じて処理を進めていく。	学生募集要項
7-37-11 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	学納金及び学生に関する情報は事務局会計課と広報・教務が連携を取り、常に正確に共有している。	学納金の納入状況については、すべて事務局会計課が管理・把握している。(学生数、個人別金額等)	現状問題なし。	学生募集要項

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学納金は適切かつ妥当なものと考えている。 時代の変化に伴い、学費改定などを行い、充実した教育環境を整えていく。	学科・専攻において、教材や講師の見直しを行っており、学費及び諸費用の無駄は支出をチェックしている。 学生募集要項には進級時の費用も記載しており、保護者には卒業まで計画が立てやすい状況となっていると考える。また、高校在学時から日本学生支援機構、教育ローン等のアドバイスを実施している。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 基準 8 財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算（収支計画）は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p> <p>平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているが、財務情報公開の体制は整っている。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>① 正確かつ実現可能な予算の作成</p> <p>予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものである。当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。</p> <p>短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。</p> <p>正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならなればそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り</p> <p>①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。</p> <p>事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	毎年の次年度事業計画書の中に5ヶ年計画の収支予算を立てているので、財務基盤は安定している。	次年度事業計画で5ヶ年収支計画を立て、3ヶ月ごとの実績評価体制のため、債務超過や資金不足にならず、中長期的に財務基盤は安定している。	予算の算定及び実績の評価に関して、滋慶学園本部によるチェックがあるため、適正な予算執行が行われている。	
8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	例えば、収支予算については、予算消化率、実績収支率などの数値情報と推移を正確に把握している。	3ヶ月ごとに実績を評価することによって、随時、予算を超過しないように学校運営がなされている。	事業計画の中で作成する5ヶ年収支予算の次年度数値をかなり正確に算出しないと以降が大幅に狂うため、算出根拠の正確な把握が必要となる。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、次年度事業計画書を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てている。次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのがその目的の1つである。	毎年の収支予算については、予算消化率、実績収支率を算定している。最近では、キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しているため、経費予算のみならず、施設設備、借入金の返済等の予算も作成している。3ヶ月ごとの実績を評価することによって、随時、予算を超過しないように学校運営がなされている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-39-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	「事業計画」は次年度予算と5ヶ年収支予算を作成するが、滋慶学園本部とも協議しながら目標に照らし作成するため、本部と現場のズレはない。	年度予算の作成には入学者数、在校生数、退学者数等、また次年度の目的・目標等に基づき作成されるため、有効かつ妥当なものとなっている。	環境変化が激しい昨今、正確な予算を作成することが難しくなっており、より正確な情報・資料及び分析と予測が必要となっている。	
8-39-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	健全な学校運営のために、予算・収支計画を有効かつ妥当な手段として利用しているが、常に計画に即して執行する。	3ヶ月ごとの実績算定と評価を行い、必要があれば修正をも行うため、計画に沿って執行されている。	修正が必要となれば、修正予算を組むが、その修正は正確でなくてはならず、そのための情報・判断には精度が求められる。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算編成の方法は短期的と中長期的に行っているが、妥当な方法と考えている。5年を見越した中長期的事業計画を毎年立て、その中で収支計画を作成するが学校、滋慶学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成になっていると考える。学校の財務体制を管理し、健全運営のため、予算・収支計画は有効かつ妥当手段として利用されている。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算、という流れの中で収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

8-40 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-40-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	会計監査は法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人を行われている。	監事による会計監査に加え、任意による公認会計士による監査も適正に行われている。	適正な計算書類の作成は法人等の責任であり、そのためには更なる効率的・有効的な経理処理システムの構築も必要となる。	
8-40-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	会計監査が適正に行われるためには、双方が適正に行える体制を整えておかなければならないが、その方針で実施している。	会計監査が適正に行われるためには、その体制を整えておかなければならないが、双方が適正に行える時期とスケジュールで実施している。	監査の実施を妥当な状況で行うために、受ける側、実施する側の体制を相互理解し、コミュニケーションを図る必要がある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考える。</p> <p>監査を有効に実施してもらうため、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。</p>	<p>監事による監査も受けているが、それに加えて、任意に公認会計士による監査も受けている。これにより、適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に更なる努力をしている。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 8-41 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	平成17年私立学校法の改正に伴い、「財務情報の公開」が義務づけられたことに応じ、迅速に取り組み、体制を整えている。	公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて、現場対応を行っている。	体制は整っているが、実際の公開申請がまだないため、規程に則り、今後実際にはどのような対処方法で行うかを検討しておく必要がある。	財務情報公開規程
8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	「財務情報公開規程」を作成し、財務情報の公開における必要最低限の項目を定め、対応にあたっている。	財務情報公開規程を作成したが、規程では目的、管理、公開対象書類、閲覧場所・時間、閲覧申請方法等を規定している。	教職員への周知徹底が必要不可欠であるが、全教職員への研修が必要と考える。	財務情報公開規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人がこれまで以上に主体的・機動的に対処できるよう、学校法人の管理運営制度の改善を図り、平成17年に私立学校法が改正され、財務情報の公開が義務づけられた。当法人でもこの法改正に迅速に取り組み、外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、内部関係では、財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、公開体制を整備した。	(体制) ①法人統括責任者 ②学校統括責任者 ③学校事務担当者 (公開書類) ①財務目録 ②貸借対象表 ③収支決算書 ④事業報告書 ⑤監査報告書 (閲覧場所) 株式会社滋慶 財務情報公開規程では目的、管理、公開対象書類等々、最低限事項を定める。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------



## 基準 9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。</p> <p>法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。</p> <p>現状では、学校運営（学科運営）が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p style="margin-left: 20px;">①学校法人調査    ②自己点検・自己評価    ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 等</p> <p>である。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。</p> <p>(A) 組織体制</p> <p style="margin-left: 20px;">①財務情報公開体制（学校法人） ②個人情報管理体制（滋慶学園グループ） ③広告倫理委員会（滋慶学園グループ） ④進路変更委員会（滋慶学園グループ）</p> <p>(B) システム（管理システム）</p> <p style="margin-left: 20px;">①個人情報管理システム（滋慶学園グループ） ②建物安全管理システム（滋慶学園グループ） ③防災管理士システム（滋慶学園グループ） ④部品購入棚卸システム（滋慶学園グループ） ⑤コンピュータ管理システム（COM グループ）</p> <p>滋慶学園グループ、COM グループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校（学科）運営ができるようにしている。</p> <p>法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>3つの建学の理念「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼（「学生・保護者からの信頼」、「高校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」）を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。</p> <p>具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。</p> <p>委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p> <p>監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。</p> <p>今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必用であると考える。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、法を遵守した適切な学校運営を行っている。	学内にコンプライアンス委員会を設置し、確実な実践の推進に当たっており、行動規範・コンプライアンス規程作成、抵触事案への対応等々を行う。	幹事による毎年の監査に際し、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっているが、継続が必要と考える。	
9-42-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	学生便覧に教育基本法、学校教育法等の紹介をし、常に意識するよう、できるようにしている。	コンプライアンス委員会が周知徹底のPR、啓蒙文書作成・配布など、啓蒙活動を実施している。	基本的な体制作りはできたが、今後は学内にコンプライアンス相談窓口の設置が必要になると考える。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「建学の理念」で「職業人教育を通して社会に貢献する」ことの実現を目指し、「4つの信頼」を獲得するためにもコンプライアンス推進を図っている。すべての法令を遵守すると共に、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが重要な社会的使命と認識し、実践する。	法令や専修学校設置基準の遵守に対する方針は、文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは整備している。教職員へは、法令や設置基準の遵守に関する教育または研修を実施し、周知徹底を図っているが、今後も継続して行う。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等 学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を設け、それぞれの教職員が関わるすべての個人情報について、これを遵守している。	個人情報を管理するコンピュータはネット等の外部情報と切り離し、流出しないようにしている。紙情報は金庫、キャビネット等で施錠管理している。	掲示板には学生個人情報を掲示しないようにしているが、卒業認定者発表等、一部、対象外にせざるを得ないものもある。	
9-43-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	個人情報保護に対する啓蒙は日頃から行い、全教職員が徹底して行っている。	学生には、学生便覧に記載して行い、教職員には個人台帳を作成し、どのような種類のどれだけの情報に関わっているかを確認している。	教職員は各自がどれだけの個人情報に係わっているかを常に意識し、確認する姿勢が必要である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報を大切に保護することが重要な社会的使命と認識し、すべての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために、「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいく。	学校内に「個人情報保護委員会」「個人情報取扱委員会」を置き、責任者・担当者を決め、取り組んでいる。教職員に対しては、教育・研修も実施し、周知徹底と厳重な保管体制を図り、外部業者に業務を委託する場合は、「選定チェック表」により審査の上、「個人情報保護誓約書」を提示させている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-44-5 自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	常に問題点を抽出し、改善していく姿勢を確立しているが、今後もその姿勢は変えない考えである。	広報・教務・就職が三位一体となって開催する会議があり、この中で問題点の改善に努めている。	定期的には自己点検・自己表を実施し、改善に努めていく。	
9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	学校全体で自己点検により問題点を抽出し、改善すること、自己評価に取り組む方針も確立している。	各部署で問題点を抽出し、その改善への方策を協議し、そこで決定した改善案・方法を試みている。問題点は学校全体としても共有されている。	方針は確立されており、引き続き行っていく。	
9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	意思決定システムが確立されており、自己点検・自己評価に関する方針も正確に伝わっている。	方針は各部署、各個人レベルへ落とし込み、正確に伝わるようにシステム化されている。	時には、方針が正確に伝わっていることを全体として確認してみることも大切である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
滋慶学園グループとして打ち出された自己点検・自己評価実施の方針のもと、学校として真摯に行うことを事業計画書にも反映し、教職員全員が確認、取り組んでいる。一番重要なことは、内部的には問題点を抽出し、改善していくこと、外部的には学校の現状を公表し、評価を受け、更により学校を目指すことである。	広報・教務・就職が常に一体となってオンリーワンの学校を目指しているが、この体制が自己点検・自己評価を真摯に実施できることに繋がっている。意思決定システムも確立しており、抽出した問題点を早い時期に解決できる体制は整っている。

最終更新日付

2020年2月1日

記載責任者

上田 卓弥

## 9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-45-8 自己点検・自己評価結果を公開しているか	滋慶学園グループとして積極的に取り組んでいる自己点検・自己評価を行い、公開していく。	HPなどで公開しているので引き続き行っていく。	定期的には自己点検・自己表を実施し、改善に努めていく。	自己点検・自己評価報告書
9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	本校における自己点検・自己評価は、学校教育法及び専修学校設置基準の規定に従い、公開する方針は確立されている。	本校においても、コンプライアンス（法令遵守）は大原則であり、公開に関する方針は確立されている。	自己評価の公開を行った後、第三者評価も受け、その結果も併せて公開していく必要がある。	自己点検・自己評価報告書
9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	自己点検・自己評価については、学則にも規定しており、学則は学生便覧にも記載しているため、学生・教職員には広く伝わっていると考え。	自己点検・自己評価の公開に関する方針は、会議等で正確に伝えている。	自己点検・自己評価結果を公開する前に全教職員で点検及び評価結果を周知徹底させる必要がある。	自己点検・自己評価報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・自己評価は、学校教育法、専修学校設置基準にも規定され、公開も義務化されているが、本校においてもコンプライアンスが大原則であり、自己点検・自己評価を行い、その結果を公開すると共に、第三者評価も受け、その結果も併せて公開する必要があると考える。	自己点検を行い、問題点を抽出し、改善することが第一であり、先ずこれを最優先するが、その体制はできている。その上で、自己評価を行い、公開するが、最終的には、第三者評価も受け、その結果も併せて公開していくことが望ましい。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 基準 10 社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」（①学生・保護者からの信頼②高校からの信頼③業界からの信頼④地域からの信頼）というコンセプトがある。</p> <p>この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。例えば、業界企業や団体、あるいは小学校等の教育機関とタイアップして行う各市民イベント、また地域の方々を対象とした校内での展示会や発表会、あるいは地域で行われる防災訓練、防災啓蒙活動等々を通じ、「業界の信頼」、「地域の信頼」に繋がっている。</p> <p>滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で行っている、節電、冷房温度28度設定、階段利用（2アップ3ダウン）や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者からの信頼」に繋がっている。</p> <p>特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。</p> <p>例えば、①骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」、②「北葛西地域清掃ボランティア」、③「西葛西図書館 読みか聞かせプロジェクト」など年間を通じ、教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。</p> <p>その活動が、「学生・保護者からの信頼」、「高校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がり、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。</p> <p>今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

## 10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	本校には「4つの信頼」というコンセプトがあるが、この信頼の獲得を目指すことで、社会貢献も行えると考えている。	学校周辺の施設での「読み聞かせプロジェクト」などを実施している。	現状は施設の提供等に留まっているが、今後は共同開催という形でのイベントや活動へ発展させていくことで更なる交流とすべきである。	学生便覧
10-46-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	本校では、卒業生を対象とした生涯教育の一環として、卒業教育セミナーを開講する。	生涯教育の一環として、卒業生を主な対象として、合同企業説明会などへのイベント参加を年間を通して実施予定。	今後は卒業生以外の外部の方々を幅広く対象としたセミナー等を開催して方向で発展させるべきである。	
10-46-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	校内施設・設備等を利用し、地域の方々へヒーローショーの実施により貢献を行っていると考える。	本校の「4つの信頼」の1つでもある「地域からの信頼」の一環として、学内の施設を使用して、ヒーローショーを定期的実施している。	今後は、学園祭やヒーローショーだけではなく地域交流を積極的に図るよう、企画・立案し、実現させるべきである。	学生便覧
10-46-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	将来的には、交換留学生制度を実施できるよう、事業計画書では計画し、取り組む予定となっている。	留学センターを中心に、短期留学などの受け入れを積極的に行っている。	日本のアニメ文化に興味を持つ方が多いので、引き続き受け入れを行っていく。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	本校では、滋慶学園グループが実施する様々な支援活動(募金その他)や啓蒙活動を共に積極的に行っている。	国内外の震災時の募金、支援活動や地球温暖化対策など、学生や教職員が一体となり、取り組んでいる。	特色をもっと活かし、学外へも啓蒙活動を幅広く行う必要がある。	学生便覧
10-46-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	地球温暖化防止対策、ゴミ削減等々、積極的に取り組んでいる。	地球温暖化防止啓蒙シール(冷房28度、階段利用等)を各所に貼って取り組み、ゴミ削減やその他エコロジーに積極的に取り組んでいる。	特色を最大限に活用し、学生と教職員が一丸となり、身近な問題から1つ1つ取り組んでいく必要がある。	学生便覧

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>本校には、「4つの信頼」(学生・保護者からの信頼、高校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼)というコンセプトがあるが、それらの獲得を目指すことで、社会貢献も行なえと考えている。学生や教職員の意識は高いが、今後はもっとその特色を活かし、身近な問題から1つ1つ取り組んでいくことが必要であると考え。</p>	<p>多くの社会問題をテーマに、身の回りの小さなことまで幅広く関心を持ち、様々なイベントを通じて、資源の大切さや有効利用、ゴミ削減等々を訴求している。</p> <p>例えば、節電、階段の使用、コピー用紙の削減など啓蒙活動等も行なっているが、今後も学校の特色を活かしたことを中心に社会貢献できるよう、啓蒙活動を続けていく考えである。</p>

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------



## 10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-47-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	本校では、ボランティア活動を大いに奨励、支援している。特別単位を認定している。	近隣施設での行事・イベントへ積極的に参加をし、運営・撮影・出演等を行っている。	単位認定の規程を設け、積極的に支援しているが、演習・実習が多い本校では、ボランティア活動とのスケジュールの調整が今後の課題である。	学生便覧
10-47-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	学生がボランティア活動をする時は事前に所定用紙に記載し、担任へ申請する形をとっており、把握できるようにしている。	所定用紙を事前に必ず明記して、保管管理を行っている。	所定の手続きを行っているため、現在は課題・問題とは特に無いと考える。	学生便覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では、学生に対し、ボランティア活動を大いに奨励・支援しており、規程を設けている。ボランティア活動は、まさに本校の「3つの建学の理念」の1つである、「人間教育」そのものであり、学業との相乗効果を鑑み、特別単位として認定し、意欲の高い学生を評価、支援している。	産学連携教育システムの一環として、企業や地域における社会的イベント等へのボランティア参加も積極的に推奨、支援している。活動による単位認定を行い、申請及びレポート報告の流れについて、詳しく記載し、意欲のある学生にわかりやすいようにしている。

最終更新日付	2020年2月1日	記載責任者	上田 卓弥
--------	-----------	-------	-------

